

【演習】

「地域で地域移行を推進し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための戦略をブラッシュアップしよう」



特定非営利活動法人 じりつ

岩上 洋一

実効性のある地域移行支援を考えてみると。

- 医療と福祉の連携体制があること。
- 市町村(圏域)が地域移行支援の中心となること。
- 保健所が地域診断をもとに、医療機関に適切な働きかけができること。
- 協議会が形骸化せず、有効な役割を發揮すること。
- 地域移行支援の目標値とプロセスが明確であること。
- 市町村(圏域)ごとに地域移行支援と人材育成のシステムがあること。
- 医療機関職員と地域機関関係者の退院支援意欲を喚起できること。
- 入院患者に退院意欲を喚起できること。
- 都道府県が横断的な仕組みをつくり、具体的な地域移行支援の数値目標と人材育成ビジョンをもつこと(精神保健福祉センターはシンクタンクとなる)。
- ピアサポートを効果的に導入できること。
- 地域生活支える居住の場、福祉サービスを確保できること。

市町村(あるいは圏域)に地域移行支援推進チームをつくる。

○ 市町村(あるいは圏域)地域移行支援推進チーム(以下、チーム)は、市町村、保健所、基幹相談支援センター及び精神科病院で地域移行支援を担当する者(以下、地域移行支援担当者)で構成する。

1 チームは、各病院の地域移行支援対象者数をもとに、当該年度の**目標値、地域移行支援の進行プロセス**等を検討する。

2-1 チームは、**病院職員**の地域移行支援への**意欲が喚起**されるよう働きかけを行う。病院の地域移行支援担当者は、地域移行支援を推進するための多職種チームのリーダーとなる。

2-2 チームは、**関係機関、事業所、地域移行後の生活支援への協力**について働きかけを行う。

3 チームは、**連携して入院患者の退院意欲の喚起**を行う。

4 チームは、本人の居住市町村への申請を支援して、地域相談支援の地域移行支援担当者への橋渡しを行う。

5 地域相談支援の申請後は、チームは、地域移行支援担当者をサポートする。

6 チームは、地域移行支援の**進捗管理**を行い、**課題を集約して協議会に報告**する。

* 地域移行支援を推進するための人材を育成する。

市町村(自立支援)協議会・部会等

都道府県(自立支援)協議会・部会等

都道府県地域移行支援推進チーム
・圏域の地域移行推進チームの代表で構成する。
・仕組みづくりと人材育成を行う。
・居住支援協議会への働きかけを行う。

演習 それでは「実効性のある地域移行支援」を見える化をしましょう！

- 1 1年以上入院している患者さんはどんなことを考えているのでしょうか。
- 2 そんな患者さんを病院スタッフはどんなふうに思っているのでしょうか。
- 3 ところで、このうち何人ぐらい退院できるのでしょうか。
- 4 地域移行支援を活用するってどういうことですか。
- 5 相談支援事業所は、本当に地域移行支援に取り組めるんですか。
- 6 もう一度、退院支援の対象者数は何人ですか。
- 7 ここでの市町村・保健所・基幹相談支援センターの役割は何ですか。
- 8 チームをつくりましょう！
- 9 準備をします。

- 10 医療機関への働きかけはどうしますか。保健所の機能・精神保健福祉センターの機能
- 11 相談支援事業所への働きかけはどうしますか。：対象者数
- 12 協議会との連携を考えてみましょう。
- 13 ピアサポートを活用しましょう。
- 14 さて、チームの活動が始まります。
- 15 職員への働きかけのポイントを考えてみましょう。
- 16 患者さんの意欲喚起ってどうすればいいのでしょうか。
- 17 患者さんと話をしましょう。
- 18 地域課題を集約します。
地域支援体制をつくりましょう。
⇒ これからが地域移行支援の本番です。

重層的な連携体制の構築

全体像の把握 包括的な調整
エンジン部分

実効性のある地域移行支援(医療と福祉の連携)を推進する中核的人材育成のための研修企画チーム

医療

福祉

行政

ピアサポーター

施策レベルの連携(施策提言・システム作り)

官民協働
のチーム

中核となる
人材育成
の研修

地域レベルの連携(ネットワーク形成)

(自立支援)
協議会

スキルアップ
の研修

現場レベルの連携(個別支援)

個別支援

基盤となる
研修

連携の裾野

施策の反映

医療

福祉

行政

ピアサポーター

本人中心の
支援チーム

政策レベルの連携体制と人材育成の推進

全体像の把握
包括的な調整
エンジン部分

それぞれのレベルにおける連携の意味合いを理解して、包括的に機能させていける人材が必要です。そのための官民協働の人材育成チームが必要です。

医療

福祉



行政

当事者

官民協働の
人材育成チーム

施策レベルの連携(施策提言・システム作り)

中核となる
人材育成の研修

地域レベルの連携(ネットワーク形成)

スキルアップの
研修

地域移行を推進するため、医療と
福祉の連携体制がひろがる取組み

現場レベルの連携(個別支援)

基盤となる
研修

【演習】の実施方法

【演習】は、講義、発表、報告を受けて、広くディスカッションを行い、今後の都道府県、政令指定都市において、実効性のある地域移行支援を推進し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指して実施します。

○実施形式。

* 各Gで進行役と書記を決めてください。

○目的

* 地域移行支援を推進し「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」のための課題を明確にします。

* 成果目標のポイントとして 基盤整備を進める障害福祉計画、医療計画等の策定・措置入院制度の医療等の充実・協議の場の創設、活性化・ピアサポーターの養成、活用などについて、実効性のある手立てを検討します。

* 検討を踏まえて、今後の取組について具体的に見直しを行います。

* この続きを、いつ、どこで、誰と誰が、何について話し合うか決めておきます。

タイムスケジュール(目安)

14:40 ～ 16:30 110分	ポイント1	演習について説明します。	10分	
	地域移行推進のための課題	事前課題5を講義等を踏まえて再確認します。	20分	方向性共有
	ポイント2	課題の解決にむけて有効な手立てはあるのか考えます。	30分	協議会の活用方法及び具体的成果目標を確認する。
	今後の取組み	成果目標を具体的に踏まえて、1年後の目標を共有したうえで、事前課題6の見直しを行います。	30分	GW
	全体共有2	複数のグループが発表します。	15分	共有
	まとめ	アドバイザーがコメントします	5分	

方向性を共有して、都道府県、政令都市の地域移行支援推進し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための今年度のスケジュールを作成します。